

## 網袋を用いたアサリ採苗試験の技術指導

令和元年～3 年にかけて市川市漁協が実施した網袋によるアサリ稚貝採苗試験を技術面から支援しました。網袋の目合い、基質などを検討した結果、稚貝を効率的に採苗できる技術であることが明らかになりましたが、台風や青潮の影響の回避が課題と考えられました。

### 1 採苗試験の実施状況

網袋の設置手法：2 本のコンポーズパイプに張ったロープに砂利などの基質を入れた網袋を一定間隔で結び、万国旗状に設置。

令和元年度の試験：6 月 18 日から市川市塩浜地先の 2 か所で、網袋目合の異なる以下の 2 試験区を設置して採苗個体数を比較。

試験区 No.	網袋目合 (mm)	基質
1	12	軽石＋砂利
2	4	軽石＋砂利

令和 3 年度の試験：5 月 11 日から市川市塩浜地先の 1 か所で、網袋目合と基質の異なる以下の 4 試験区を設置して採苗個体数を比較。

試験区 No.	網袋目合 (mm)	基質
1	12	砂利
2	12	軽石＋砂利
3	2	砂利
4	2	軽石＋砂利

### 2 採苗試験の結果

- 令和元年度の試験では試験区 1（目合 12mm）が優れ、試験開始 2 か月後の 8 月 13 日には 1,048 個/m<sup>2</sup>のアサリ稚貝が袋内に確認されました。しかし、9～10 月に相次いで襲来した大型台風による浮泥の堆積によって減耗し、12 月 13 日には 105 個体/m<sup>2</sup>に減少しました。
- 令和 3 年度の試験では、試験区 3（目合 2mm，砂利）が優れ、試験開始 3 か月後の 8 月 24 日には 104 個/m<sup>2</sup>のアサリ採苗が袋内に確認されました。しかし、9 月上旬に発生した青潮の影響で 10 月以降は生存個体が確認できませんでした。

### 3 採苗試験のまとめ

- アサリの産卵や浮遊幼生の着底が行われる春季に着底基質（軽石，砂利）を入れた網袋を設置することで、稚貝を採捕できましたが、夏～秋季の青潮や大型台風の影響により稚貝を継続的に飼育することはできませんでした。
- 本手法の実用化には採苗したアサリ稚貝を、青潮や浮泥の悪影響を受けにくい場所に移植するなど、採苗場所と育成場所を分離した管理手法をとることが課題と考えられました。
- 試験目的である三番瀬における網袋を用いたアサリ稚貝の効率的な採苗を確認できたことから、令和 3 年度をもって試験を終了しました。